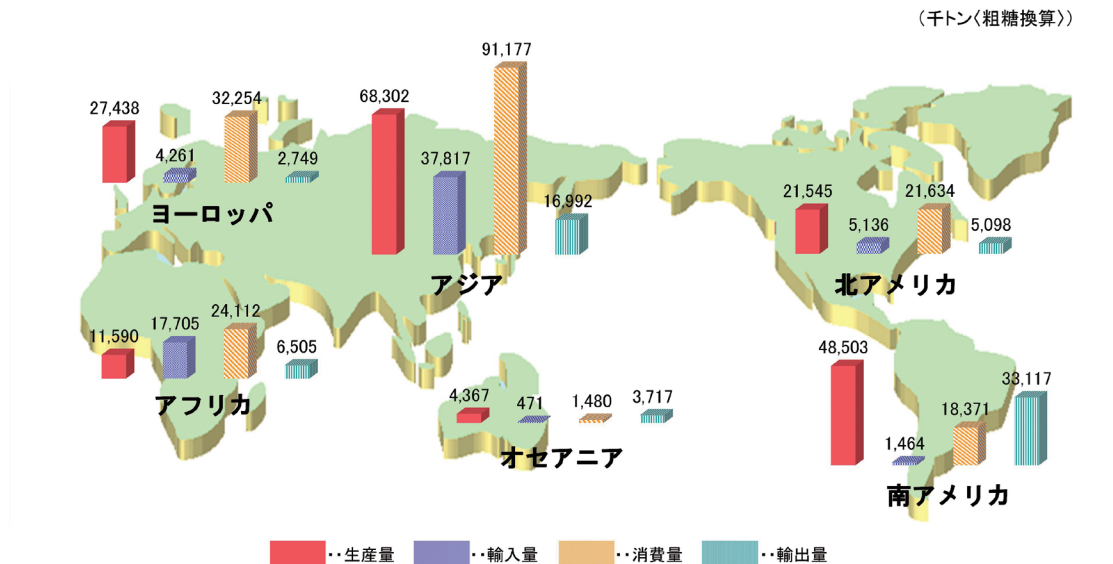


砂糖の国際需給

調査情報部 高田 勇一、峯岸 啓之

1. 世界の砂糖需給（2023年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	66,233	180,846	68,134	81,135	44.9
2018/19	81,135	186,654	61,365	182,866	61,426	84,863	46.4
2019/20	84,863	181,550	69,210	182,097	71,634	81,892	45.0
2020/21	81,892	181,745	66,854	184,618	68,178	77,694	42.1
2021/22	77,694	186,621	69,184	187,383	70,833	75,283	40.2
2022/23 (2023年6月予測)	75,283	190,261	69,153	189,029	71,220	74,447	39.4

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2023年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2023年7月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002967.html

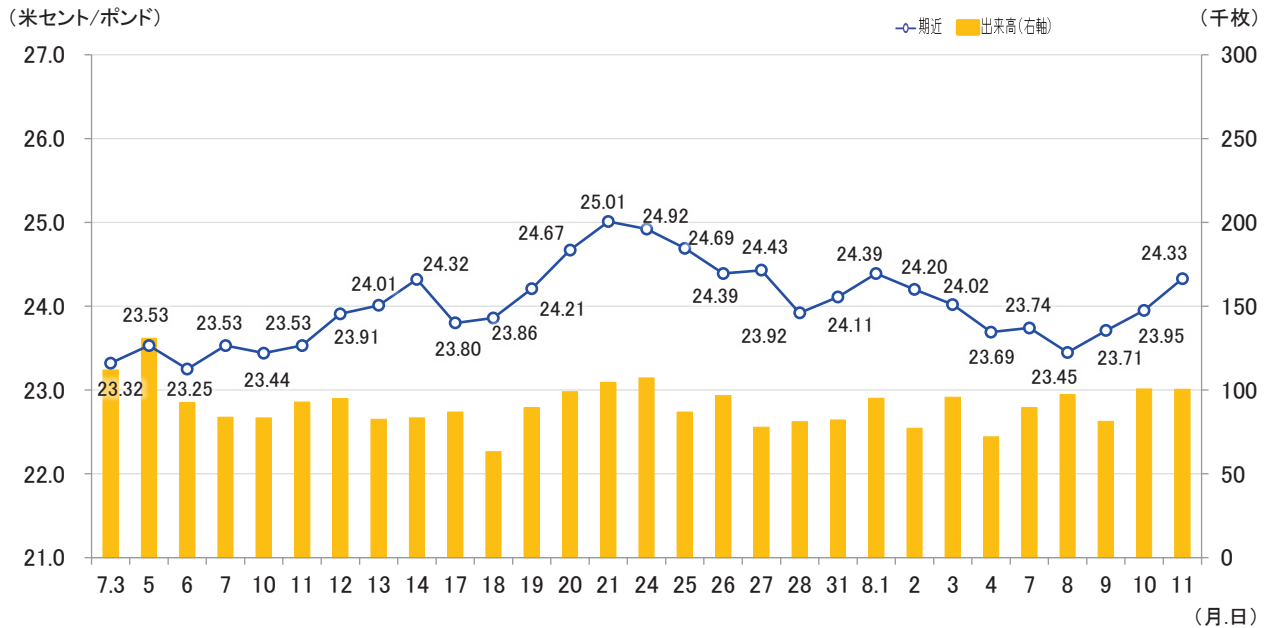
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002968.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（7/3～8/11）

～1カ月ぶりに25セント台をつけ、供給懸念から強含み～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：7月は10月限の値。

2023年7月のニューヨーク粗糖先物相場（10月限）の推移を見ると、7月3日は、堅調な需要の兆しがうかがえることから、1ポンド当たり23.32セント（注1）をつけた。5日は、乾燥が続くタイの天候不順を受け、同23.53セントと上昇した。6日は、リアル安（注2）により、同23.25セントと値を下げたものの、7日は、タイの天候不順とドル安により、同23.53セントと再び値を上げた。10日以降は、主産地での気象状況（ブラジルの好天やタイの天候不順など）により上下し、13日は、原油価格の上昇（注3）により、同24.01セントをつけた。さらに14日は、リアルが1週間ぶりの高値まで上昇し、相場を押し上げたことなどから、同24.32セントをつけた。17日は、原油安とブラジルの好調な収穫を背景に、同23.80セントまで反落した。18日以降は、

タイでの少雨見通しから上昇し、20日は、同24.67セントをつけた。さらに、21日は原油高により、1カ月ぶりに同25セント台（同25.01セント）をつけた。24日は、ブラジルでの乾燥した天候が収穫を後押しして、同24.92セントと値を下げた。25日以降は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が7月前半の中南部の砂糖生産量を前年同期比8.9%増と発表したことから、下落が続き、26日は、同24.39セントをつけた。27日は、ロンドンを拠点とする調査会社が世界の2023/24年度の砂糖市場は約600万トンの供給不足になると発表したことなどから、同24.43セントと反発したものの、28日は、引き続きブラジルの増産などを受けて同23.92セントまで下落した。31日は、原油高により、同24.11セントまで反発した。

8月に入ると、1日は、インドの砂糖企業が2023/24年度の砂糖生産量を前年度比3%減と見込んだことから、同国の砂糖供給の懸念が相場を上昇させ、同24.39セントをつけた。2日以降は、原油安やレアル安により下落傾向が継続し、4日は、同23.69セントをつけた。なお同日、インド政府は同国の7月末時点の砂糖在庫量を1080万トンと発表した。7日は、前週のインド政府の発表を受け、同国で十分な量の砂糖が確保され、輸出抑制の緩和が期待されながらも、ロンドンを拠点とする調査会社がタイの2023/24年度の砂糖生産量を前年度比31%減と17年ぶりの低水準に落ち込むと発表したことなどを受け、同23.74セントと上昇に転じた。8日は、中国の22/23年度の7月の砂糖輸入量が前年同期比12.4%減と直近6カ月で最大の減少幅となり、国での需要の落ち込みが重荷となったことで、同23.45セントと下落した。9日は、原油高により、同23.71セントと上昇した。10日以降は、国際砂糖機関（ISO）が23/24年度の世界の砂糖生産量を

前年度比1.2%減と予測し、同年度の期末在庫量を前年度の85万2000トンの余剰から212万トンの不足に転じるとしたことから、11日は、世界的な砂糖供給不足への懸念から、同24.33セントと上昇した。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

（注2）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

（注3）一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2023年8月時点予測）

ブラジル

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：851万ha（前年度比0.3%増）

生産量：6億6300万トン（同9.3%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：4530万トン（同14.0%増）

輸出量：3475万トン（同19.9%増）

2023/24年度の輸出量は、増産と国際需要の高まりを背景に大幅な増加を見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の調査会社）による2023年8月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、農家がより収益性の高い大豆やトウモロコシなどの作物に切り替えたが、851

万ヘクタール（前年度比0.3%増）と前年度並みの水準が見込まれる（表2）。サトウキビ生産量は、主産地の中南部地域で好天に恵まれ収穫に良好な条件が続いたことなどから、6億6300万トン（同9.3%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの増産を受けて、収穫作業や工場での操業が加速しているほか、輸出関連の物流の全面的稼働を背景に、4530万トン（同

14.0%増) とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、エルニーニョ現象による世界的な天候不順への懸念や国際市場での輸入需要の高まりが期待されることから、3475万トン(同19.9%増)と

大幅に増加すると見込まれる。なお、同国南部のパラナ州にあるパラナグア港とアントニーナ港の砂糖輸出量は、23年1月から7月までの合計で224万トン(前年同期比28.0%増)に達している。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

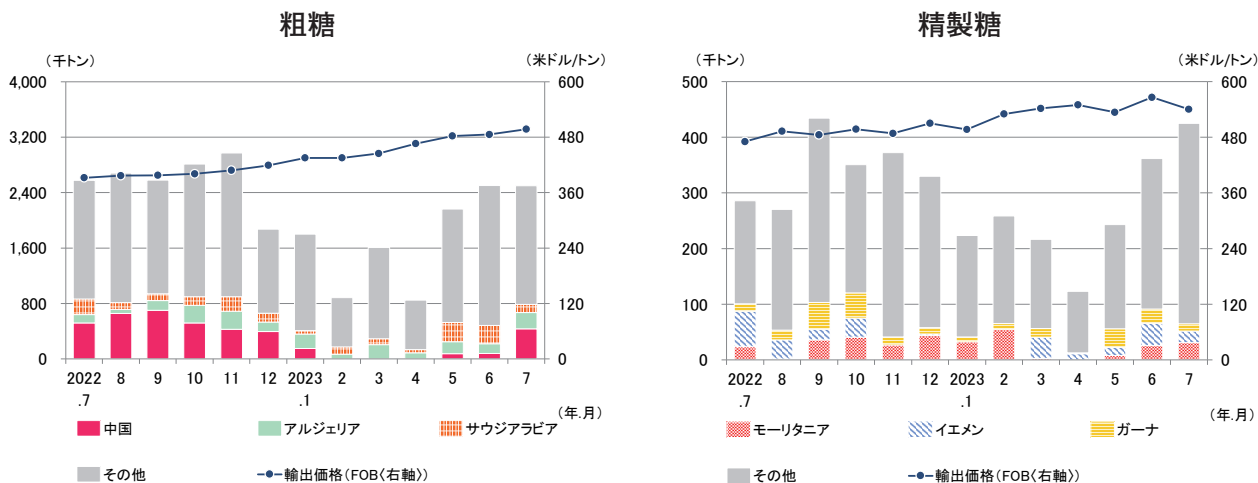
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (7月予測)	2023/24 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,485	8,461	8,511	0.3%
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,676	663,000	663,000	9.3%
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,720	44,920	14.0%
	輸入量	6	4	2	3	48.8%
	消費量	10,916	10,718	10,557	10,715	1.5%
	輸出量	34,042	27,088	28,985	34,364	19.9%
	期末在庫量	3,468	3,286	3,466	3,310	▲4.6%
	期末在庫率	7.7	8.7	8.8	7.3	7.3

資料: LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2023]

注1: 2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

インド

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：557万ha（前年度比5.4%増）
生産量：4億6416万トン（同4.3%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3534万トン（同8.4%減）
輸出量：844万トン（同32.3%減）

2022/23年度の輸出量は、減産と国内需要の確保により大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、主産地であるウツタル・プラデーシュ州やタミルナードゥ州での作付面積の拡大などから、557万ヘクタール（前年度比5.4%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。しかしサトウキビ生産量は、主産地であるウツタル・プラデーシュ州やカルナータカ州で増産が見込まれるものの、マハラシュトラ州での天候不順による減産が影響し、4億6416万トン（同4.3%減）とやや減少すると見込まれる。

また、砂糖生産量も、サトウキビの減産に加え、天候不順による早期出穂しゅっすいによりCCS（Commercial

Cane Sugar）^{（注1）}が低下したことなどから、3534万トン（同8.4%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量も、減産見込みや国内需要の確保、エタノールへの仕向け量の増加のほか、前年度と比較して輸出枠が減少^{（注2）}したことなどから、844万トン（同32.3%減）と大幅な減少が見込まれる。現地報道によると、同国政府は22年11月上旬に22/23年度の砂糖輸出枠を600万トンと発表しており、その後も輸出枠拡大の可能性は低いとしている。

（注1）可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

（注2）21/22年度は輸出枠上限として、過去最高となる1120万トンが設定された。

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

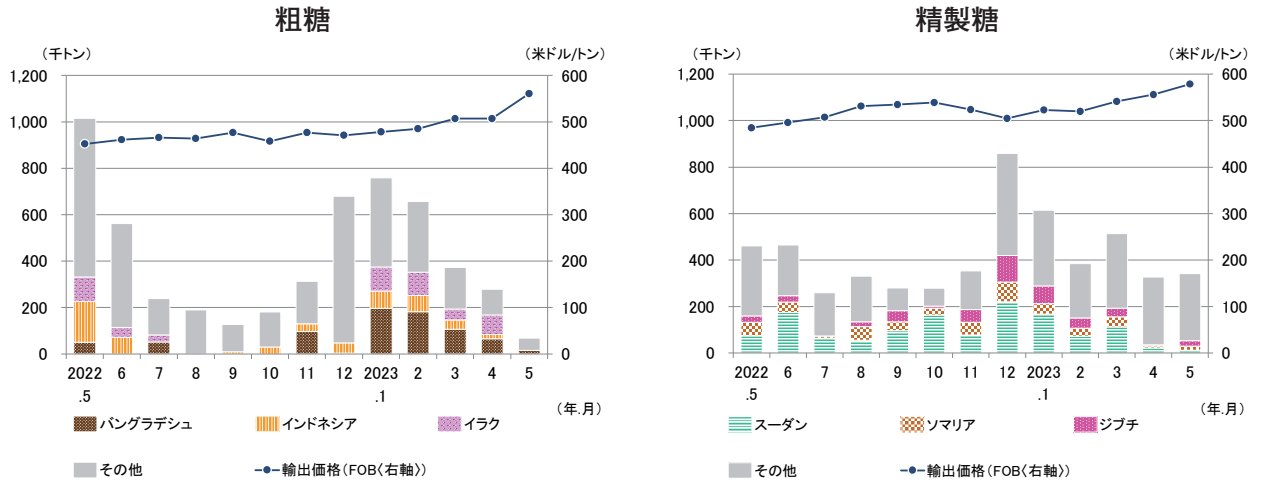
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 （7月予測）	2022/23 （8月予測）	前年度比 （増減率）
サトウキビ収穫面積	4,534	4,849	5,280	5,565	5,565	5.4%
サトウキビ生産量	371,430	410,545	485,135	464,164	464,164	▲ 4.3%
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,559	35,335	▲ 8.4%
	輸入量	1,686	1,037	428	1,195	2.8倍
	消費量	27,324	28,679	29,516	30,128	2.1%
	輸出量	8,254	8,538	12,468	8,333	▲ 32.3%
	期末在庫量	10,510	7,971	4,973	3,042	2,938
期末在庫率	29.5	21.4	11.8	7.9	7.6	4.2ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

中国

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比3.9%増）
 生産量：6264万トン（同13.2%減）

【てん菜】

収穫面積：20万ha（同38.2%増）
 生産量：875万トン（同23.8%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】

生産量：970万トン（同6.1%減）
 輸入量：545万トン（同21.8%減）

2022/23年度の砂糖生産量はかなりの程度、
 輸入量は大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、ユーカリ植林地からの転換などから、116万ヘクタール（前年度比3.9%増）とやや増加が見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、主産地の広西チワン族自治区で昨年7月から11月の間で続いた干ばつの影響や病虫害の発生により、6264万トン（同13.2%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。また、同自治区では2月上旬から3月中旬にかけての降水量が史上最低（平年比約8割減）となったことから、3月の春植えの時期に十分な水量を確保できなかったことも減産の要因とされる。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、20万ヘクタール（同38.2%増）と大幅な増加が見

込まれる。てん菜生産量は、産地で特段の天候不順もなく、順調な生育が予測されており、875万トン（同23.8%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの減産予測から、970万トン（同6.1%減）とかなりの程度減少し、1000万トンを下回ると見込まれる。輸入量は、これまで国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増しされてきたことから減少見通しが続いている。22/23年度も、国内での砂糖生産が減少予測となっているものの、近時の世界的な砂糖価格の上昇などを背景に、在庫の取り崩しなどが見込まれることから、545万トン（同21.8%減）と大幅に減少すると見込まれる。

てん菜の生産と砂糖産業の発展を促進

8月9日付け現地報道によると、中国北部のてん菜の主産地である黒龍江省訥河市の農業技術普及センターでは、てん菜の豊富な作付け経験と企業受注の利点を生かし、製糖企業と連携して科学的根拠に基づいた作付けモデルの構築を行っている。これにより、作付けの体系と品種の配置は最適化され、てん菜の生産と砂糖産業の発展につながるものと期待されている。

現在、同市では初となる水と肥料を一体化したてん菜の栽培試験が実施されている。水と肥料を同時に供することで、てん菜の生育期間中に十分な栄養を与えるだけでなく、水資源の効率的な利用と農業によってもたらされる環境汚染の効果的な予防と抑制のメリットもある。同市の関係者は市の農業技術普及センターと製糖工場の技術者の協力により、てん菜の作付けは非常に良好で、来年も作付面積を拡大すると伝えている。

また、同市では企業の原材料ニーズを確保するた

め、てん菜生産の回復と発展を目指しており、市党委員会と市政府は、年初からてん菜の輪作に係る補助金や保険など、てん菜産業を支援する政策を導入している。政府の支援と奨励もあり、同市では高収量てん菜の試験圃場を2410ムー（約161ヘクタール^(注1)）、二条植え^(注2)の試験圃場を1510ムー（約101ヘクタール）、合計3920ムー（約261ヘクタール）の圃場で試験が実施されている。新しい植え付けの技術により種子の発芽率が向上し、水と肥料の利用と品質が改善され、科学的な圃場管理と相まって、生産者が自信を取り戻すきっかけになったという。

業界関係者は、伝統的な65センチメートルの畝^{うね}に比べて、二条植えは苗の保持数が増加し、干ばつや洪水に強いいため、高い収量が期待できると述べた。

(注1) 1ムーは約0.0667ヘクタール。

(注2) 一つの畝に2列の苗を植えることで、収量の増加を図るもの。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

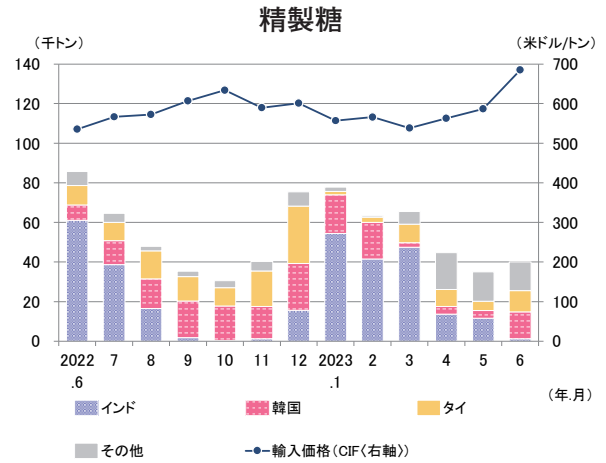
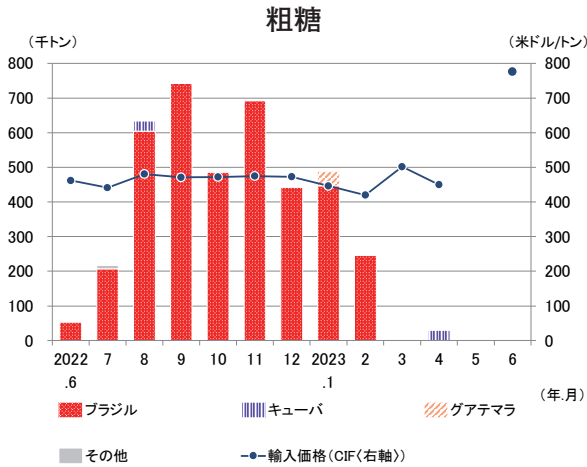
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (7月予測)	2022/23 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,176	1,157	1,119	1,163	1,163	3.9%
サトウキビ生産量	73,715	72,441	72,136	62,635	62,635	▲ 13.2%
てん菜収穫面積	213	231	144	199	199	38.2%
てん菜生産量	10,900	12,330	7,070	8,753	8,753	23.8%
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	9,698	▲ 6.1%
	輸入量	6,667	8,198	6,961	5,837	▲ 21.8%
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,848	2.0%
	輸出量	192	134	172	183	6.5%
	期末在庫量	13,065	15,919	16,517	14,818	▲ 11.4%
	期末在庫率	79.2	94.3	98.9	87.0	85.9

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。
 注3：2023年5月の粗糖輸入は、実績なし。
 注4：2023年3月および6月の粗糖輸入量は、千トン未満のため表示なし。

E U

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比3.8%減）
 生産量：9943万トン（同10.7%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1577万トン（同8.8%減）
 輸出量：90万トン（同31.7%減）

2022/23年度の輸出量は減産を背景に大幅に減少し、輸入量は大幅に増加する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、ウクライナ情勢の影響などから、世界的な規模での食糧不足や価格高騰の懸念が広がる中、収益性が高く価格が高騰しているトウモロコシなどの穀物への転作が進んだことなどから、140万ヘクタール（前年度比3.8%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、昨夏の記録的な熱波や干ばつの影響のほか、肥料価格の高騰による施肥の減少やEU域内でのネオニコチノイド系農薬の緊急的使用の禁止などから収量が平年を下回ると予測され、9943万トン（同10.7%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、てん菜の減産のほか、干ばつなどの影響を受けたてん菜が12月中旬の急激な冷え込

みと霜によりてん菜の含糖量が一層低下したことなどから、1577万トン（同8.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。輸入量は、減産による不足分を補うため、ウクライナやブラジルからの輸入が増加し、299万トン（同40.3%増）と大幅な増加が見込まれる。一方、輸出量は、砂糖の減産などを背景に、90万トン（同31.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。

てん菜生産者組合、萎黄病への警戒と損失補償を要望

EU最大のてん菜生産国であるフランスのてん菜生産者組合（CGB）は8月10日、萎黄病（^{いおう}注）に関するプレスリリースを発表した。これによると、欧州連合司法裁判所は2023年1月にネオニコチノイド系農薬の緊急的使用を否認する判決を下したが、

4月中旬に今期初のアブラムシが確認されて以来、てん菜業界とCGBは圃場におけるアブラムシが媒介する萎黄病の発生に警戒しているとしている。

23年の萎黄病による影響は調査中であるが、いくつかの地域では症状が確認されており、その症状の度合は低～中程度と見込まれ、具体的な被害状況の確認は9月中旬以降の収穫まで待つ必要があるとしている（なお、サントル＝ヴァル・ド＝ロワール地方とイル＝ド＝フランス地方では過半の圃場が影響を受けていることから、大幅な収量減が不安視されている）。

このような中、2月初めに同国の農業・食料主権大臣は、萎黄病による損失は控除額や上限なしで全

額補償されると公約しているが、一方で業界団体は政府から全額補償の発動を否認する書簡を受け取っている。

この件についてCGBの会長は、全額補償の公約は守られなければならないものであると述べ、この問題に関係なく、てん菜の生産地を将来にわたって維持するためには補償が行われるべきであり、今後数年の間で、効果的な防除技術を生産者に提供することは急務であると発表している。

（注）萎黄病はアブラムシによって媒介される植物ウイルス病。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

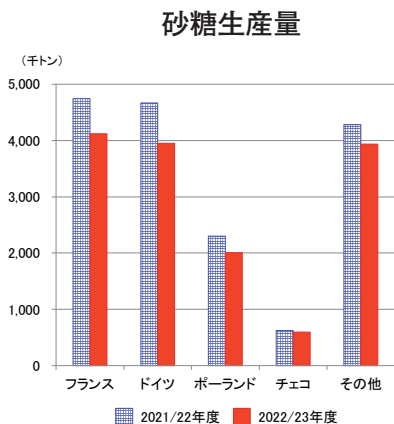
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (7月予測)	2022/23 (8月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,517	1,474	1,454	1,399	1,399	▲ 3.8%
てん菜生産量	110,099	98,518	111,395	99,409	99,426	▲ 10.7%
砂糖	生産量	16,971	15,123	17,283	15,754	▲ 8.8%
	輸入量	2,230	1,888	2,132	2,899	40.3%
	消費量	17,014	16,766	17,784	17,631	▲ 1.4%
	輸出量	1,436	1,262	1,312	897	▲ 31.7%
	期末在庫量	2,348	1,332	1,651	1,776	19.9%
	期末在庫率	12.7	7.4	8.6	9.6	10.7

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

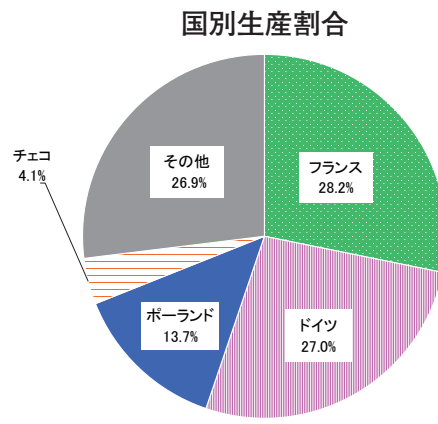
（参考）EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し（2022/23年度）（2023年6月時点）



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算

注2：2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度は予測値。



資料：欧州委員会

4. 日本の主要輸入先の動向（2023年8月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国がほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度比2.5%増）
生産量：3176万トン（同2.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：433万トン（同2.6%増）
輸出量：333万トン（同13.2%増）

2023/24年度の輸出量は、砂糖の増産を背景にかなり大きく増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度比2.5%増）とわずかな増加が見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、主産地の一つであるクイーンズランド州北部での季節外れの降雨の影響を受けて3176万トン（同2.5%減）と、前年度からわずかに減少が見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの生産量が微減となる中、433万トン（同2.6%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸出量は、世界的な経済回復により同国の主要輸出先である韓国、インドネシアおよび日本などの砂糖消費需要によってけん引されることに加え、世界的に砂糖の供給懸念により豪州産砂糖需要の高まりが見込まれることから、333万トン（同13.2%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (7月予測)	2023/24 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	354	342	331	339	339	2.5%
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,589	31,764	31,764	▲2.5%
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,222	4,333	2.6%
	輸入量	10	9	16	14	▲12.5%
	消費量	1,010	1,010	1,009	1,010	0.1%
	輸出量	3,377	3,513	2,945	3,334	13.2%
	期末在庫量	789	383	668	671	0.5%
	期末在庫率	18.0	8.5	16.9	15.5	15.5

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2023]

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：162万ha（前年度比6.0%増）

生産量：9389万トン（同3.0%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1158万トン（同7.7%増）

輸出量：855万トン（同5.7%増）

2022/23年度の砂糖生産量は前年度比増、 輸出量も800万トン半ばと前年度を上回る見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、競合作物であるキャッサバ生産からの一部回帰などから、162万ヘクタール（前年度比6.0%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表7）。なお現地では、23/24年度に向けた作付けが始まっているが、エルニーニョなどによる乾燥気候を考慮して、より乾燥に強いキャッサバに転換する農家が増加しているとされる。サトウキビ生産量は、収穫面積の増加に加え、昨年の雨期の長雨により東北地域の低地帯で洪水が発生したものの、他の地域で収量が増加し、9389万トン（同3.0%増）と依然として高水準が見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの増産に加え生育期の好天を受け、含糖量が前年度を大きく上回ったことから、1158万トン（同7.7%増）とかなりの程度増加し、21/22年度に引き続き1000万トン超えが見込まれる。輸出量は、砂糖の増産や輸出先国の景気回復などを背景に、855万トン（同5.7%増）と依然として倍増した前年度を上回ると見込まれる。

サトウキビ農家連盟、減産要因について言及

7月28日付け現地報道によると、タイサトウキビ農家連盟の事務局長は同国の2022/23年度のサ

トウキビ生産量について、9300万トンと前年をわずかに上回ると見込まれると発表した。一方で23/24年度は7400万～7700万トンの生産が見込まれ、不作であった20/21年度の6600万トンまでにはならないものの、過去最高となった17/18年度の1億3490万トンには及ばないとしている。

同事務局長は減産理由に以下の6項目を挙げ、これらはサトウキビ生産に影響を与え、生産者の作付け意欲の減損要因であると指摘している。

1. 生産コストに見合わないサトウキビの価格
2. 競合作物の価格高騰と転作による生産者数の減少
3. 人手不足や賃金高など経営上の問題
4. 工場へのサトウキビ輸送における制限事項の増加
5. 収穫コストの上昇と自然災害への対応
6. 長く続く干ばつによるサトウキビへの影響

現在、同国ではサトウキビ生産に関係する世帯は約22万戸で、そのうちの約8割が小規模農家とされ、過去10年に比べて減少している状況にあるが、同事務局長は競合作物への転作回避に向け、生産者に資金援助することで安心して生産に取り組んでもらうことが必要であると述べている。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

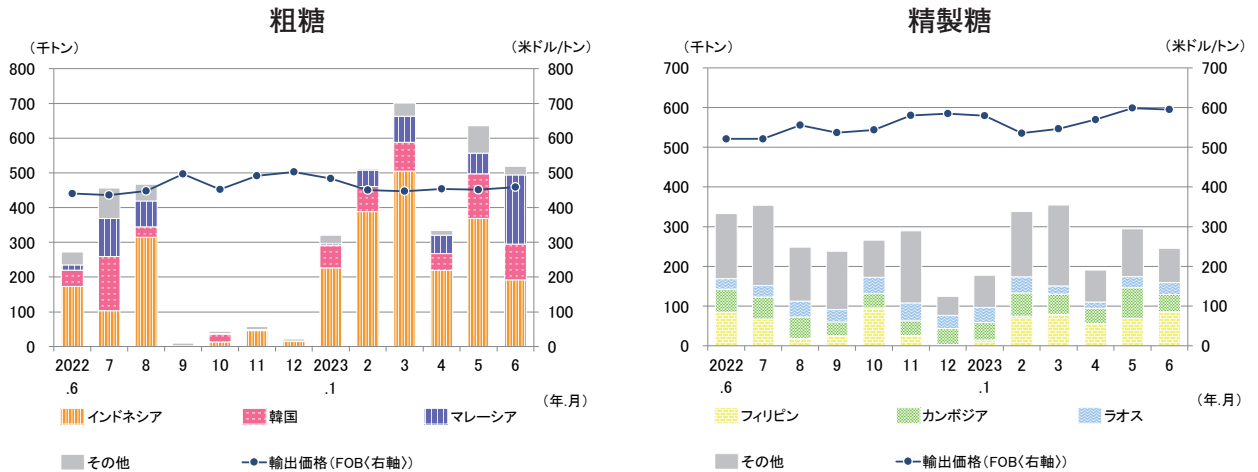
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (7月予測)	2022/23 (8月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,714	1,485	1,525	1,617	1,617	6.0%
サトウキビ生産量	74,893	66,659	91,145	93,888	93,888	3.0%
砂糖	生産量	8,801	7,981	10,749	11,575	7.7%
	輸入量	66	111	149	100	0.4%
	消費量	3,773	3,592	3,424	3,348	▲2.2%
	輸出量	8,461	3,981	8,085	8,332	5.7%
	期末在庫量	4,532	5,051	4,442	4,437	▲3.9%
	期末在庫率	37.0	66.7	38.6	38.0	35.9

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。